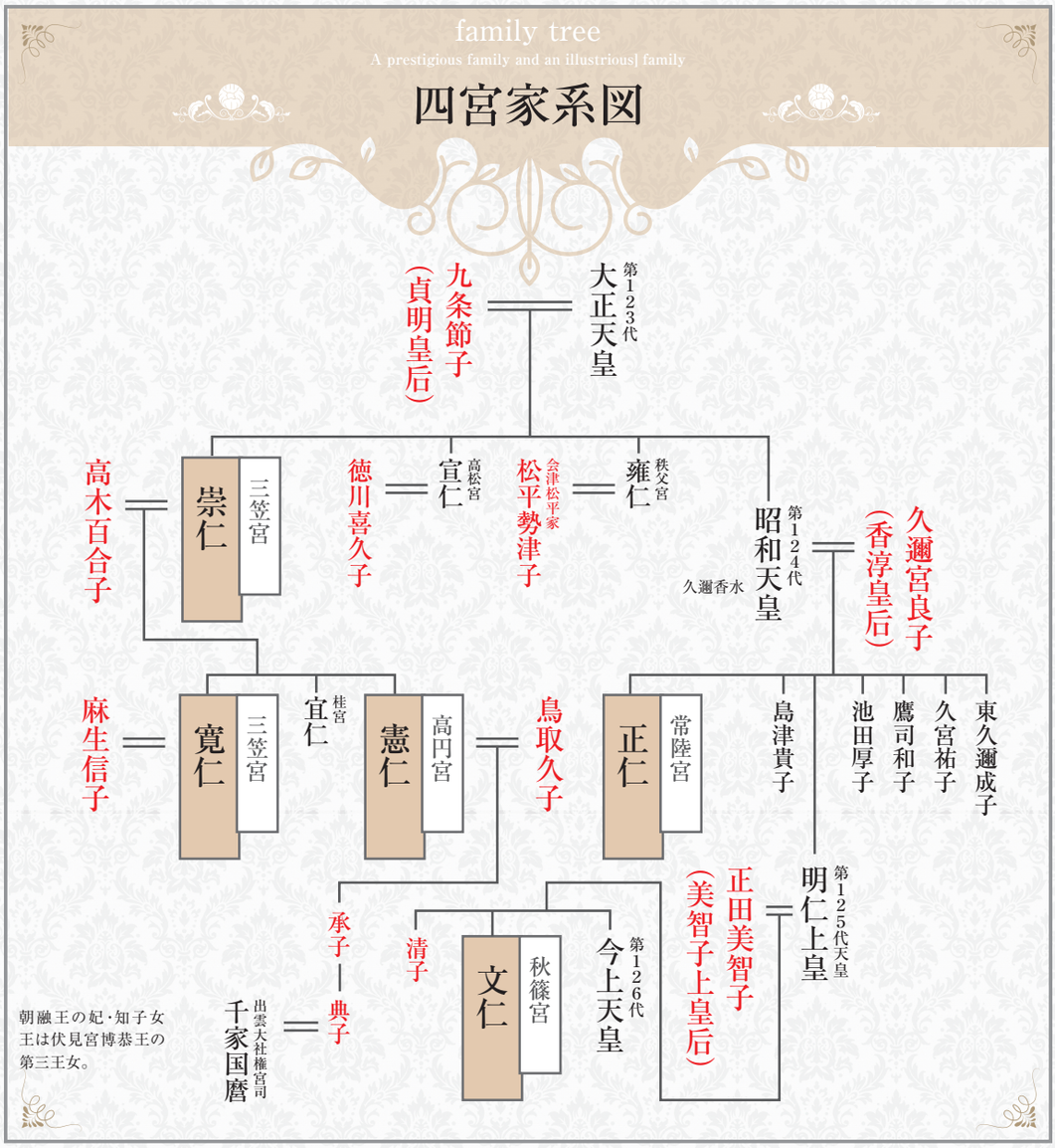

に急性硬膜下血腫で倒れてしまい、平成26（2014）年に亡くなってしまう。これにより桂宮家は一代で断絶となった。第3男子である憲仁親王は、鳥取久子との結婚を機に高円宮家を創設。憲仁親王と久子妃の間には3女がおり、平成14（2002）年に憲仁親王が亡くなった後には久子妃が当主となり、高円宮家は存続している。

一方で、戦後初めて創設された宮家は常陸宮家であった。常陸宮家は昭和天皇の第2皇子である正仁親王が、津軽華子との結婚の際に創設した。正仁親王は明仁上皇の弟にあたるが、花子妃との間に子女はいないため、一代で断絶することになる。

そして平成2（1900）年、明仁上皇の第2男子である文仁親王と川嶋紀子との結婚の機に成立したのが秋篠宮家である。2人の間には眞子内親王、佳子内親王、そして悠仁親王の3人の子が存在している。

24-31.indd 29 2019/09/25 8:29